詫間中学校学校通信　～発信！それだけじゃない詫間中～
浦島伝説
平成24年10月1日
第 27 号

自分と未来は変えられる

「読書の秋」です。『facebook「100の言葉」－こころにひだまりを』（北原照久著）には、心に響く希望の言葉がたくさん載っています。その中には、私がこれまで気に入ってよく使っていた言葉もあれば、初めて聞く言葉もあり、いろいろと考えさせられました。その中からいくつか紹介します。

- いい人生を送る秘訣は、いい人生だと思うこと。
- 過去と他人は変えられないが、自分と未来は変えられる。
- 荷物が重いんじゃない、お前の力が足りないんだ。
- どんな悲しみさえ、いつかは思い出になる。
- 感謝と笑顔があれば、幸せは向こうからやってくる。
- やればできる。お前ができなかったのは、やらなかっただけだ。
- 人は歳を重ねただけでは老いない。理想を失ったときに初めて老いが始まる。
- ノーレイン、ノーレインボー（雨が降らなければ、虹は出ない）
- 失ったものを嘆くのではなく、今あるもので一歩踏み出すことが大事。
- 一生懸命だと智恵が出る。中途半端だと愚痴が出る。いい加減だと言い訳ばかり。

ところで、先日、プロ野球セントラルリーグ優勝を決めた読売ジャイアンツの原監督が次のようなことを言っていました。『「小難ありてこそ」。この言葉を知人から聞いて、ふっと気が楽になりました。勝ったり負けたりは、勝負だから当たり前の話だし、大きなけが人が出ていたわけでもない。むしろ成功続きで慢心が蔓延するくらいなら、小さな難に直面してチーム全体が引き締まるぐらいでちょうどいいんだ、というのです。難が有るから、それを乗り越えようと努力する。だから「有り難い」ですね。』

これと同じ内容のことが、「100の言葉」の最初に載っていました。

001　感謝と有難う　　明けましておめでとうございます。今年もみなさんに福がきますようにお祈りしますね。いつも「感謝と有難う」を言えば間違いなく運がよくなりますよ。

人生はいい事だけではありません。いい事と悪い事が交互にくるのです。では、いい事を長くして、悪い事を短くすると、右肩上がりのいい人生になりますよね。いい時は「感謝」。悪い時は災難があるから悪いのであって難が有、難が有と言っていれば有難（あるなん）です。そうです。自分が今よくないと思ったときは「有難う」と言えばいいのです。

さて、今日から１０月です。１年の折り返しを過ぎました。このような何かの節目に、自分自身を振り返り、今後の生活について考えることは、とても大切なことです。

また、今、１年生は、五色台集団宿泊学習が終わり、そこで学習した集団行動の大切さを、学校生活でも生かそうとしています。２年生は、１１月に実施する職場体験学習に向けて、準備をしているところです。３年生は、今日午後から「高校説明会」があり、進路に向けて真剣に考える時期になってきました。このように、大きな行事もひとつの節目とすることができます。

「読書の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」もいいですが、「自分自身を振り返る秋」「未来に想いを馳せる秋」にしてほしいと思います。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆　お知らせ　◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

■　今日から、藤田貴子先生が本校に赴任されました。特別支援教育を中心に、学校の教育活動を支援していただきます。よろしくお願いします。

■　先週、地元の方から３件の電話がありました。電話がかかってきた日時や相手は違いますが、内容はすべて同じです。登下校時に旧道を通行する生徒がいて、しかも並進や飛び出しなどがあってとても危険だということです。校内放送でも呼びかけましたが、今一度、交通ルールやマナーについて考えましょう。